

門真市第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に 向けた調査結果の前期調査結果との比較

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

1. 分析の観点

門真市では令和6（2024）年度から令和8（2026）年度を計画期間とする「いきいきかどま高齢者プラン 2024－門真市第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定するにあたって、市内にお住いの65歳以上の方を対象に、アンケート（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）を実施しました。

また、分析にあたって、『高齢者の状態像に変化がないか』『住み慣れた地域で自立した生活をおくる上での課題はないか』『今後の生活に関する意向』等を把握することを目的に、上記の調査結果と現行計画「第8期くすのき広域連合介護保険事業計画」の策定時に実施した類似調査（健康とくらしの調査）との比較を行いました。

調査概要

	前回調査（第8期）	今回調査（第9期）
調査名	健康とくらしの調査	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
実施期間	令和元年11月25日～ 令和元年12月16日	令和5年2月1日～ 令和5年2月24日
対象者	65歳以上の方	65歳以上の方 (要介護1～5の方を除く)
実施方法	郵送調査	郵送調査
発送件数	1,741件	1,996件
回答状況	有効回答数：919件 有効回答率：52.8%	有効回答数：1,447件 有効回答率：72.5%

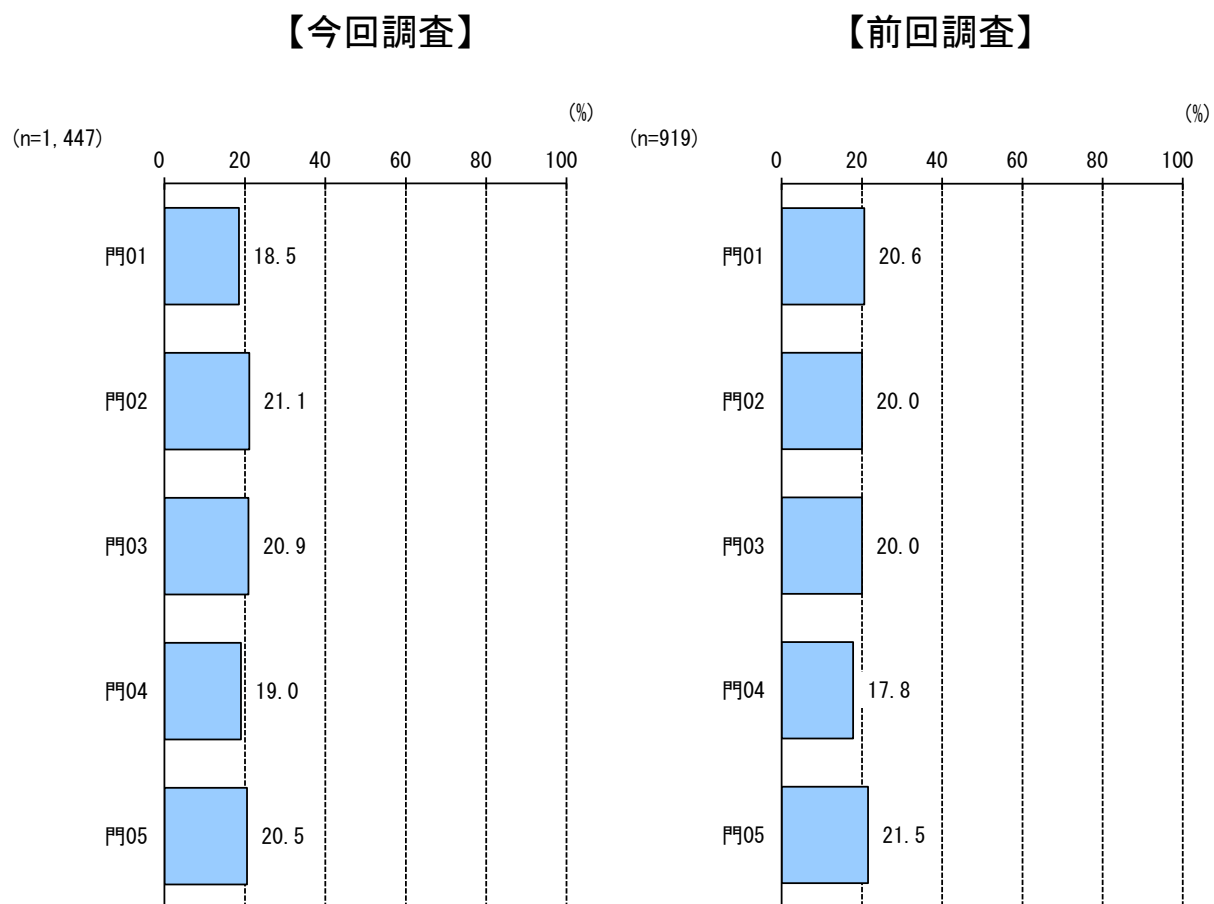
2. 留意点

本資料においては今回調査と前回調査で同様の質問項目のみ一部抜粋し、比較しています。なお、両調査の調査対象者・調査項目が異なるため、比較結果はあくまで参考値となります。

3. 分析結果

(1) 圏域ごとの調査対象者数

○ 圏域ごとの対象者数割合について、おおよそ同様の割合となっています。

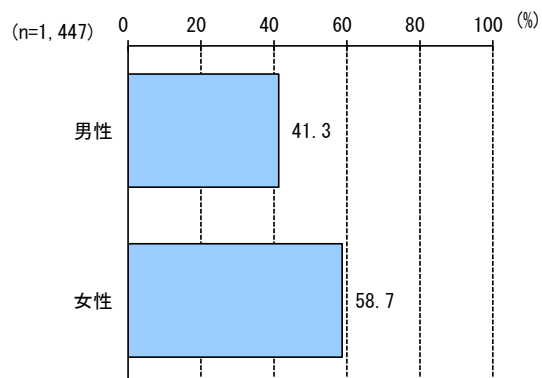


(2) 調査対象者の性別・年齢

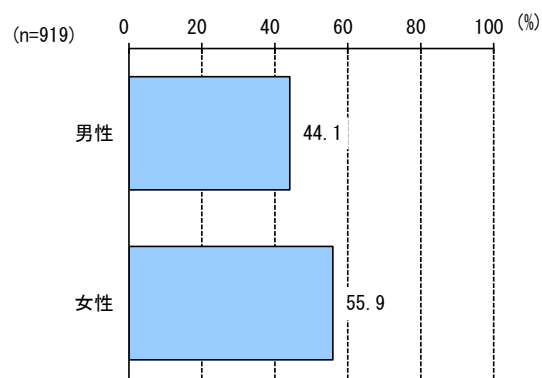
○ 調査対象者の性・年齢について、やや女性が多く 80 歳以上の方が多くなっています。

■性別

【今回調査】

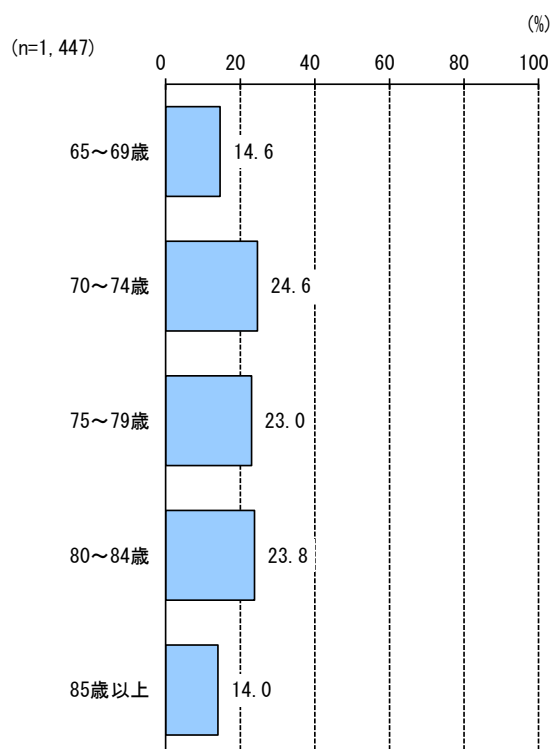


【前回調査】

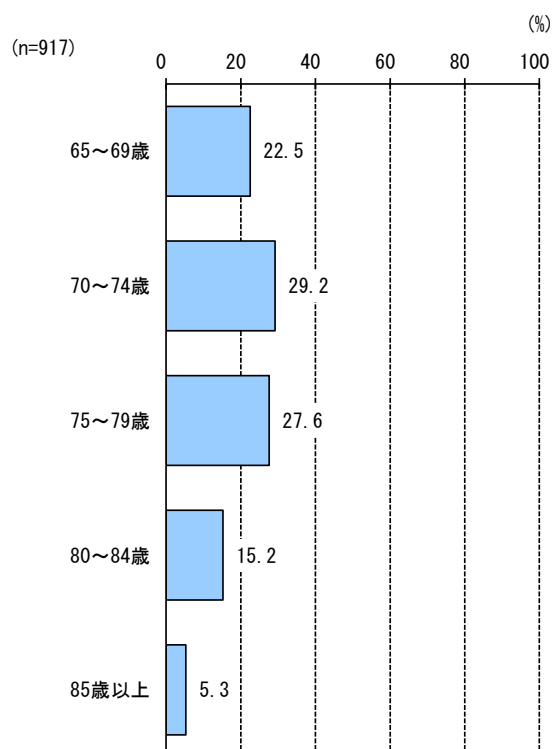


■年齢（5 歳刻み）

【今回調査】



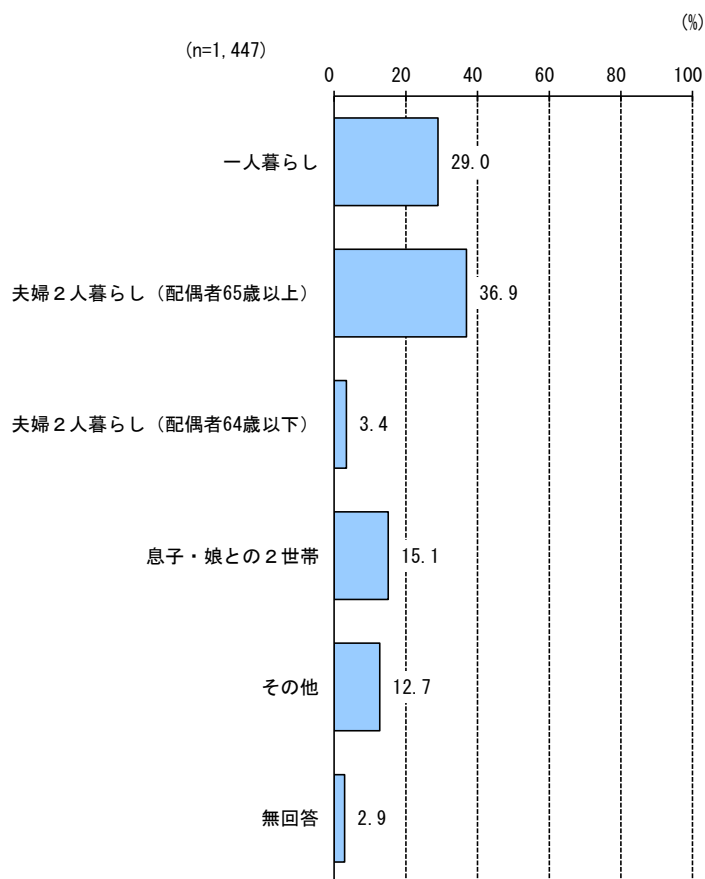
【前回調査】



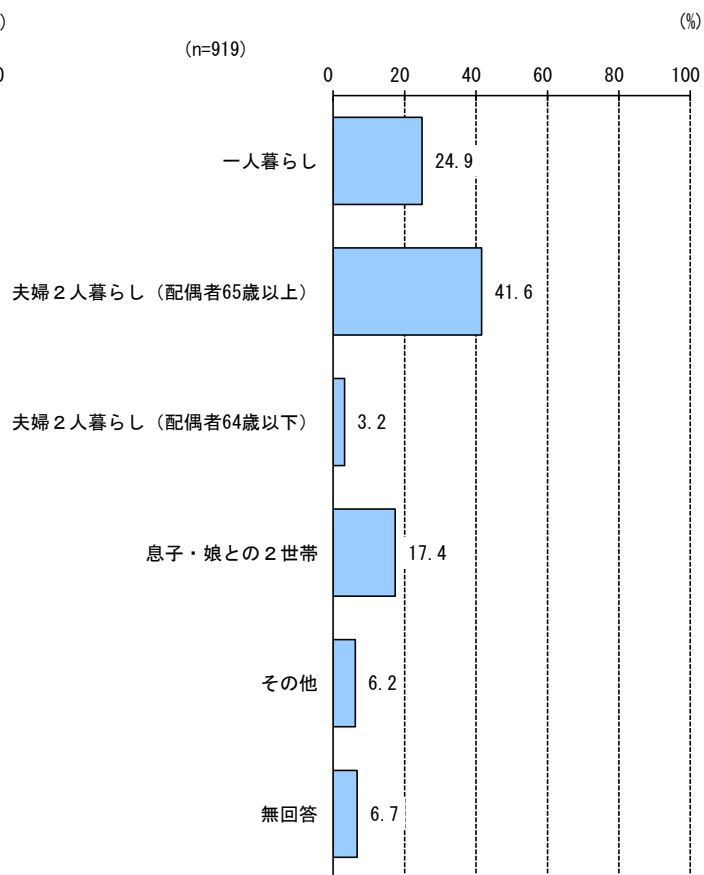
(3) 家族構成

○ 家族構成について、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）少なくなり、一人暮らしが多くなっています。

【今回調査】



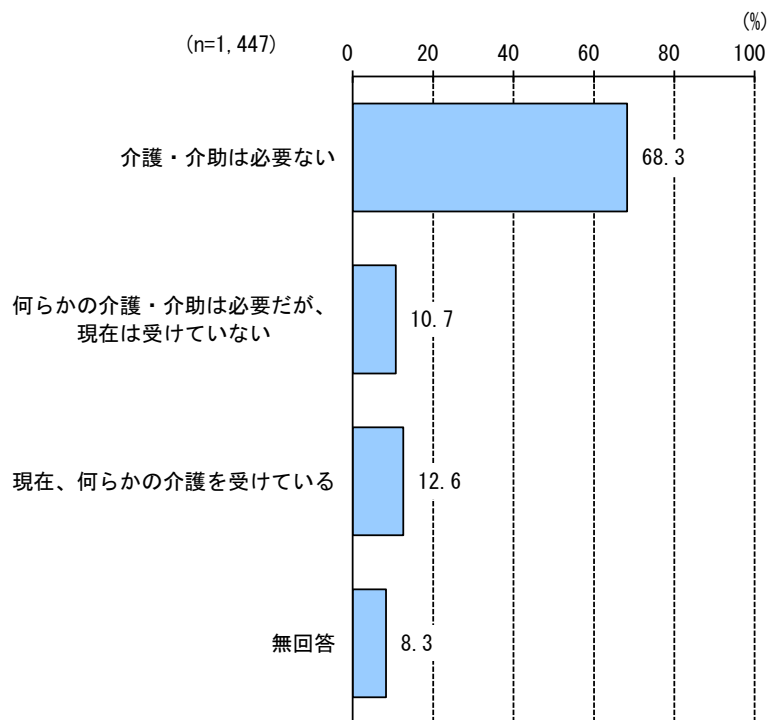
【前回調査】



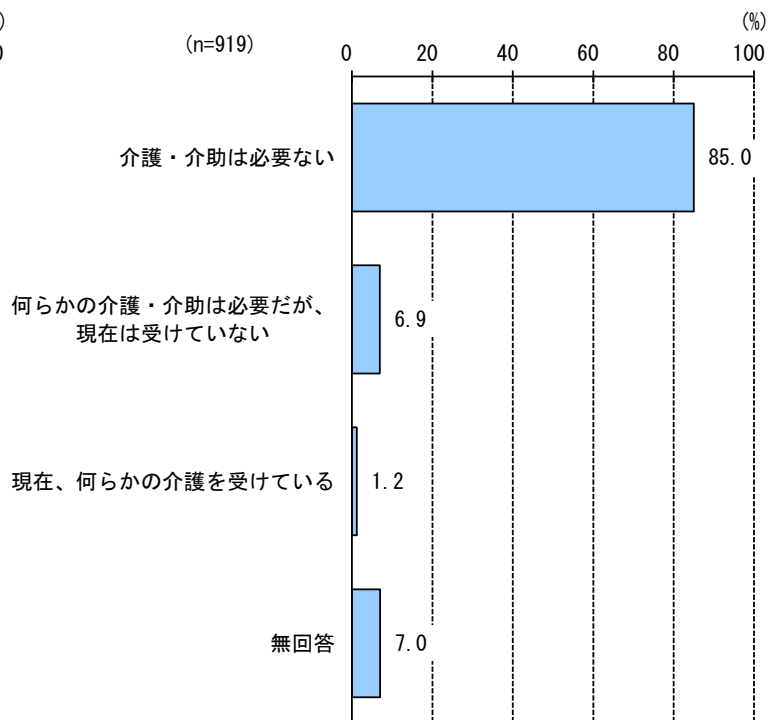
(4) 介護・介助の必要性

- 介護・介助の必要性について、何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない、現在、何らかの介護を受けている割合が多くなっています。特に現在、何らかの介護を受けている割合は11.4%多くなっています。

【今回調査】



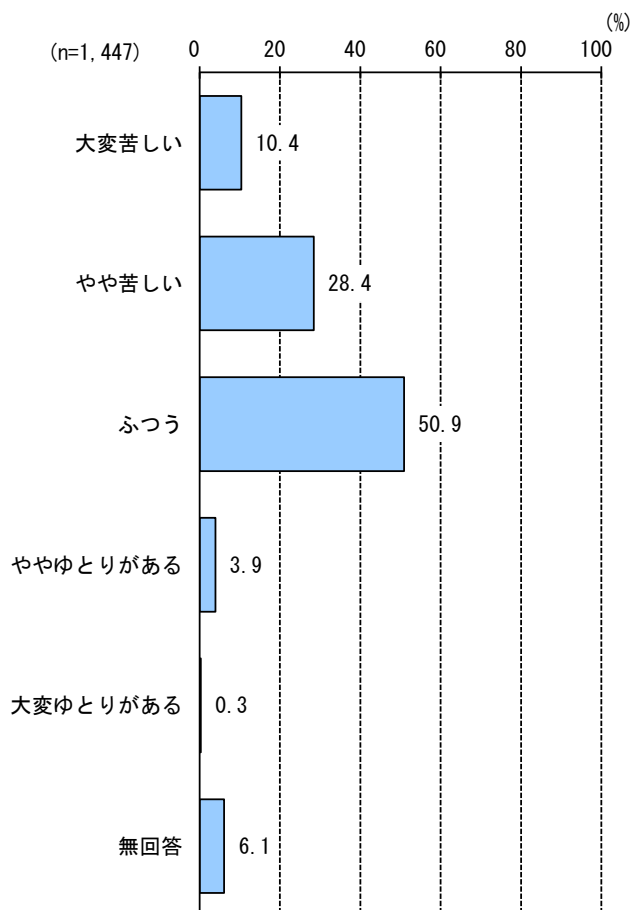
【前回調査】



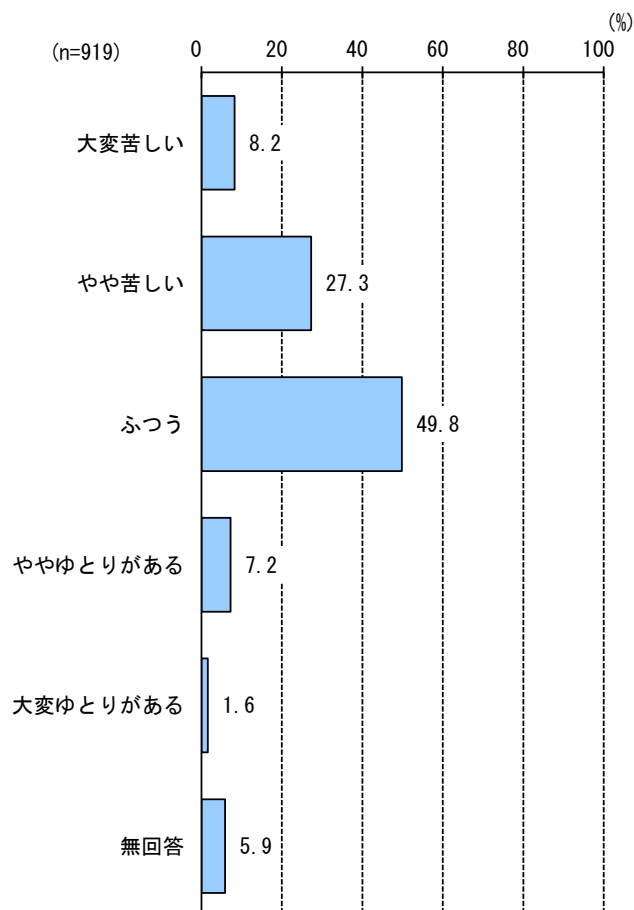
(5) 経済状況

○ 経済状況について、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた“苦しい”方が3.3%多くなっています。

【今回調査】



【前回調査】

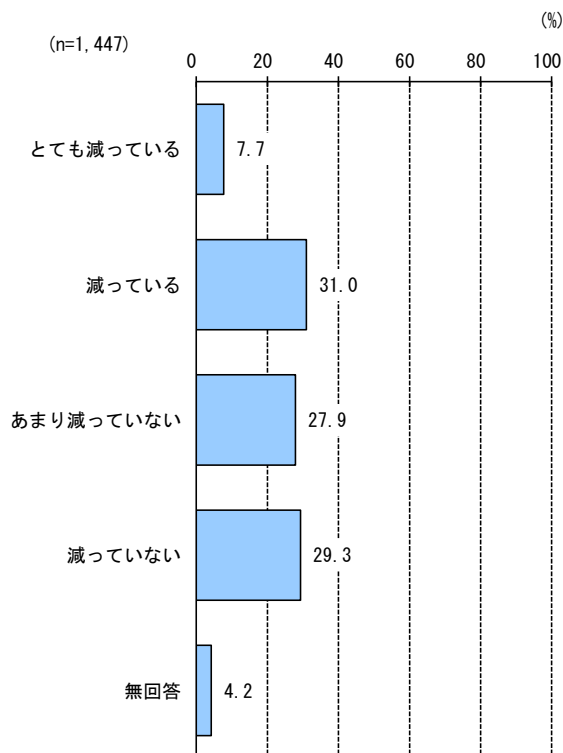


(6) 外出について

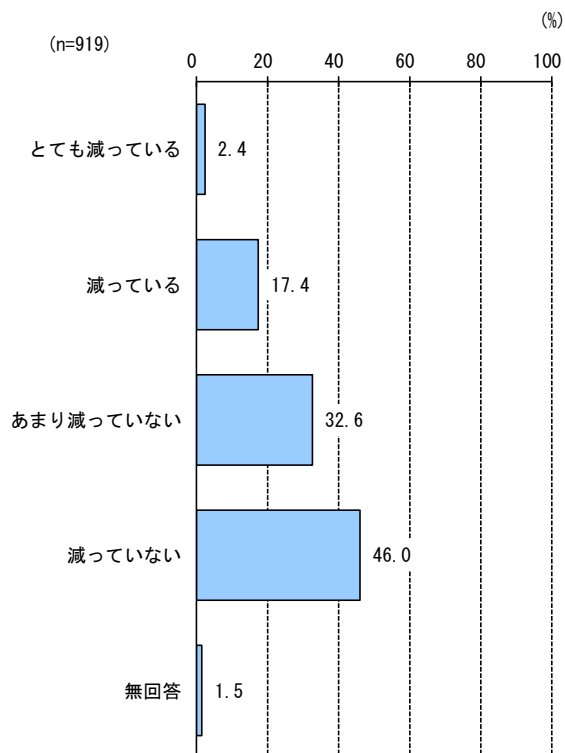
○ 外出回数が「とても減っている」「減っている」を合わせた“減っている”割合は18.9%多くなっており、外出を控えている割合についても14.1%多くなっています。

■外出回数

【今回調査】

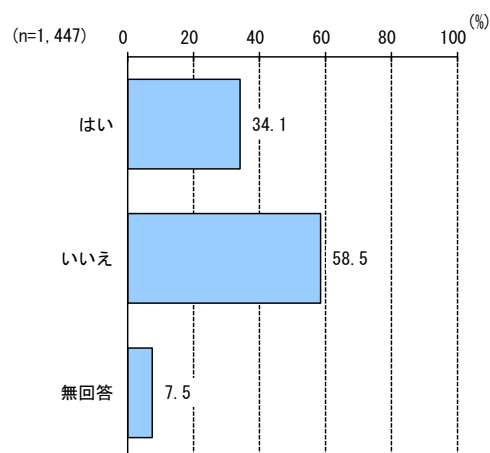


【前回調査】

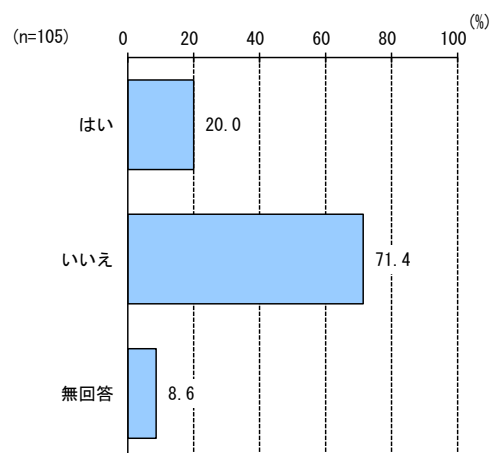


■外出を控えている割合

【今回調査】



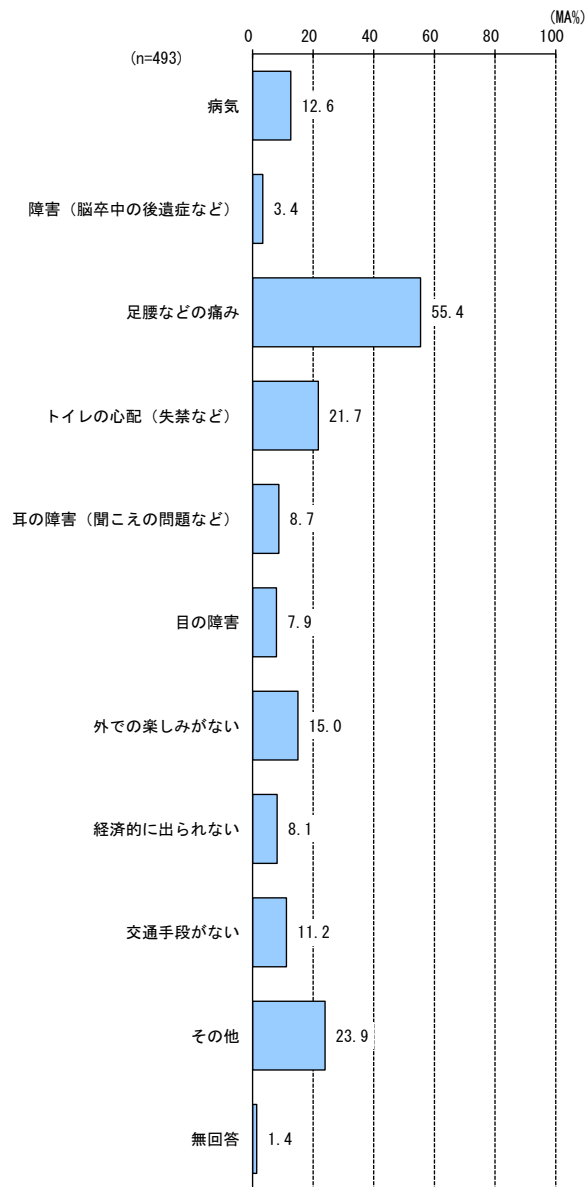
【前回調査】



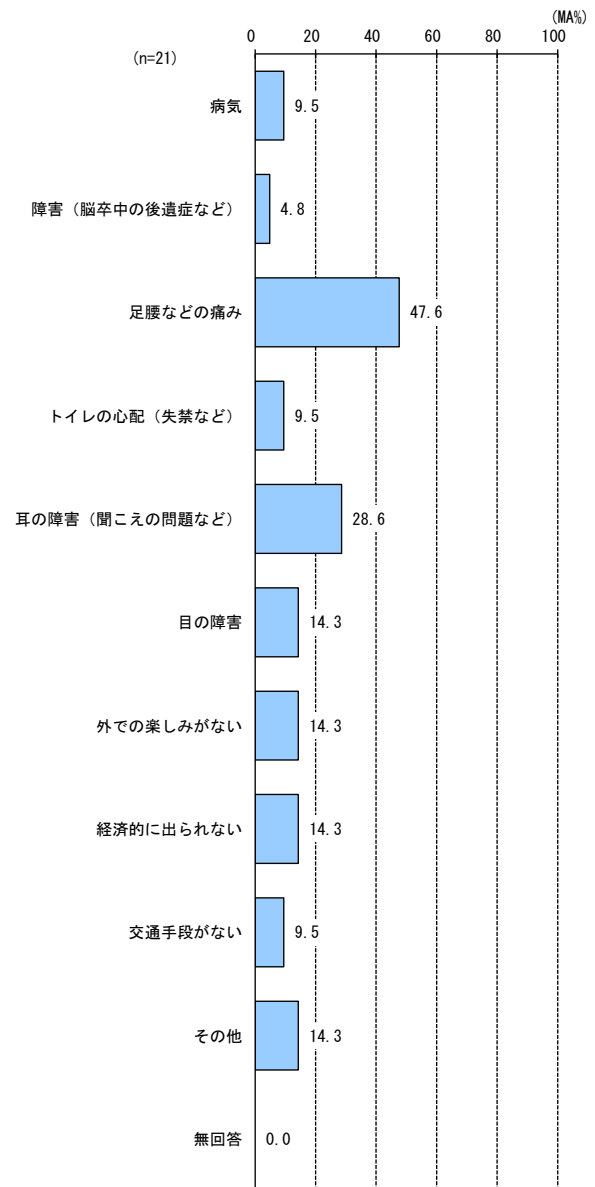
■外出を控えている要因

- 外出を控えている要因として、「トイレの心配（失禁など）」が多くなっていることに加え、「その他」が多くなっています。（今回調査においては「その他」のうち、約7割が“新型コロナウイルス”を理由に外出を控えていると回答しています。）

【今回調査】



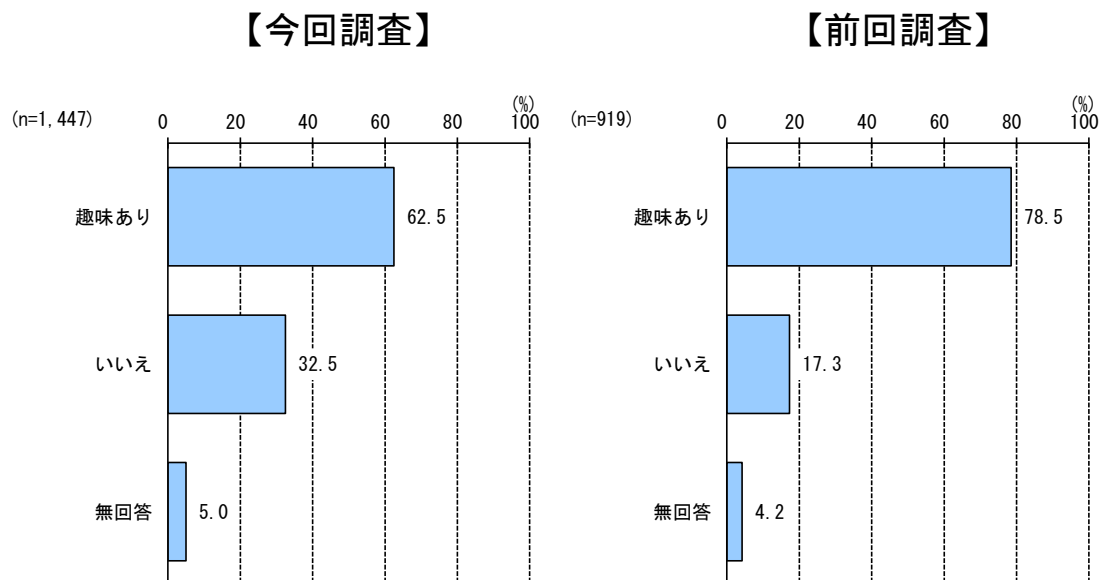
【前回調査】



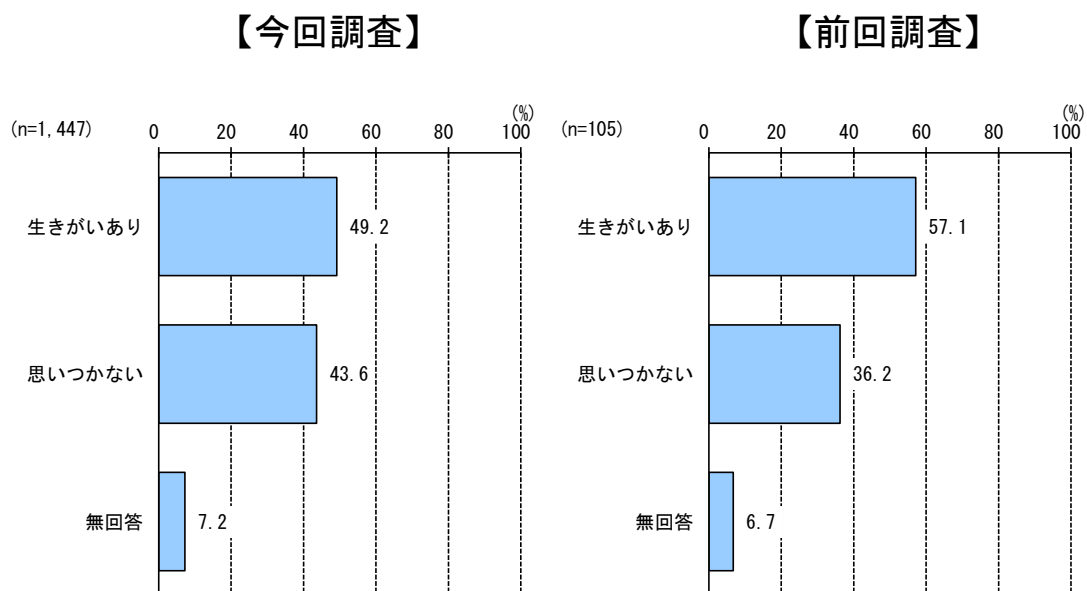
(7) 趣味・生きがいの有無

○ 趣味・生きがいの有無について、「ある」の割合が少なくなっています。特に趣味においては16.0%少なくなっています

■趣味



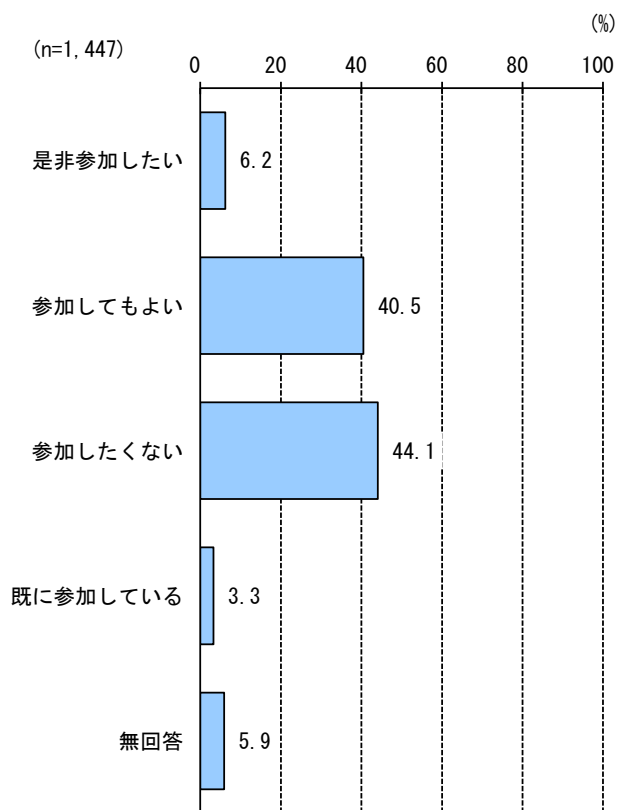
■生きがい



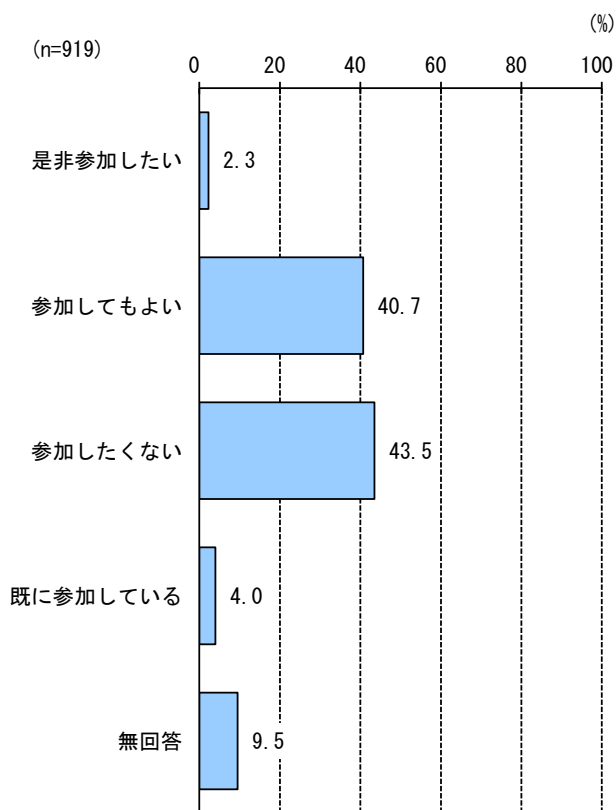
(8) 健康づくり活動への参加意向（参加者として）

○ 健康づくり活動への参加意向（参加者として）について、「是非参加したい」と回答している割合が 3.9 ポイント高くなっています。

【今回調査】



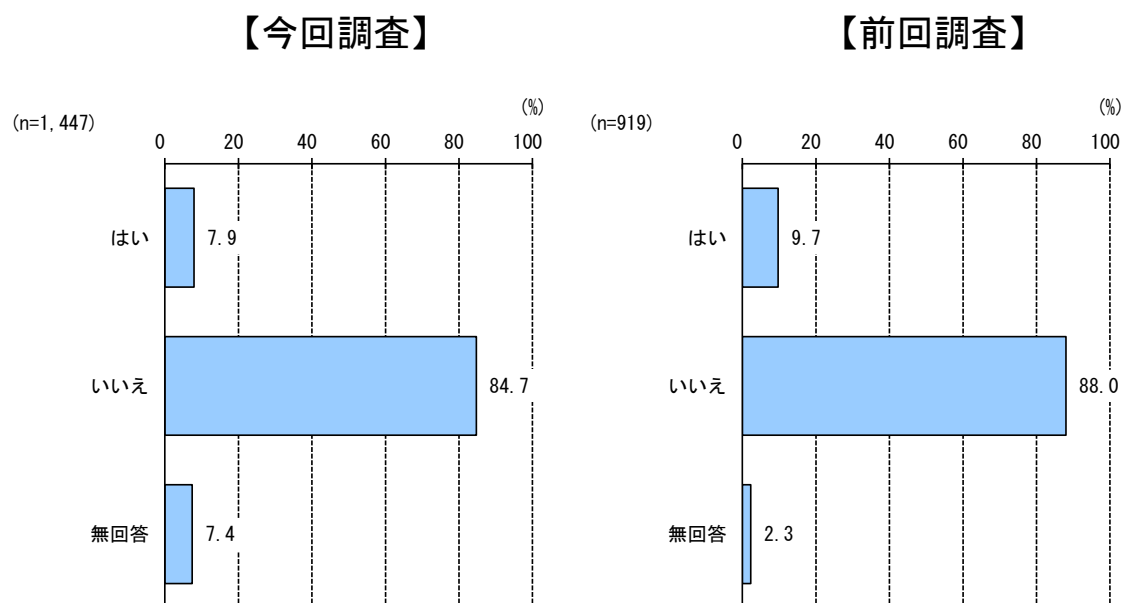
【前回調査】



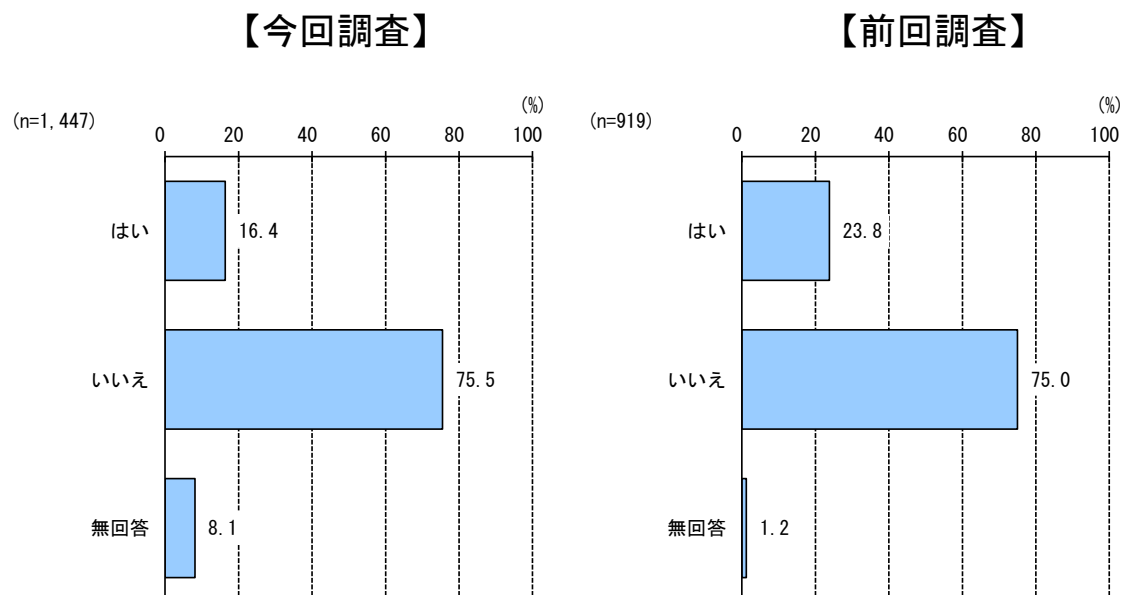
(9) 認知症の症状有無・相談窓口の認知度

- 自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいると回答した割合はおおむね同程度でした。
- 認知症に関する相談窓口について、知っているという割合が少なくなっています。

■ 認知症状の有無



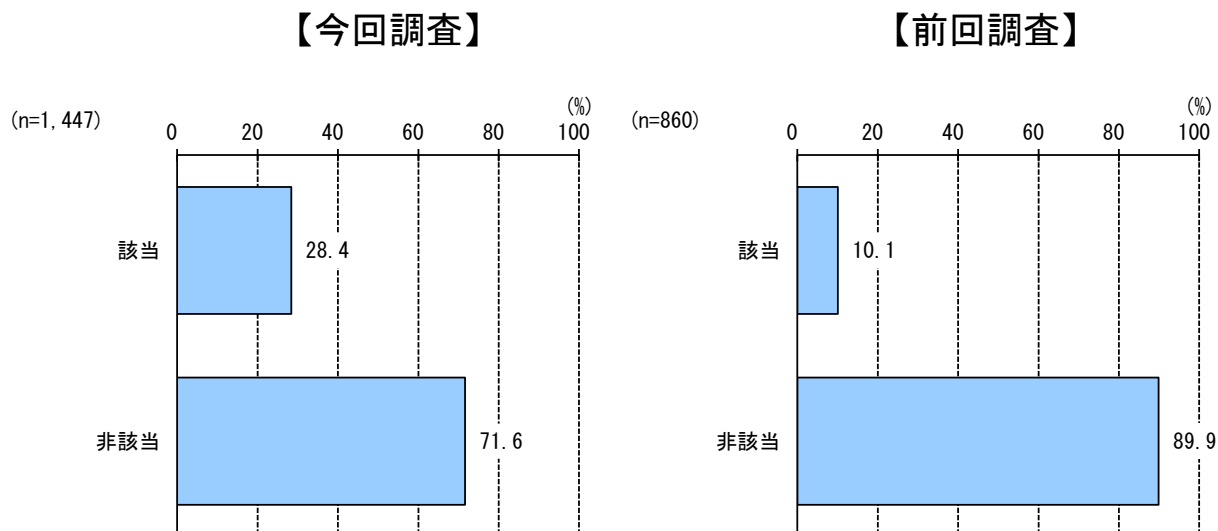
■ 認知症に関する相談窓口の周知度



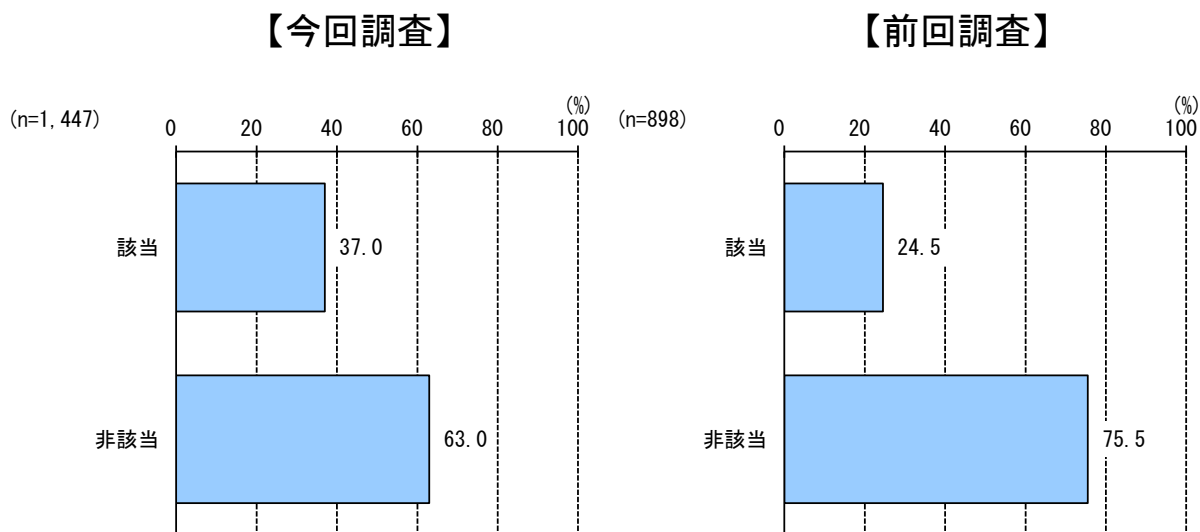
(10) 各種リスク判定項目

○ 各種リスク判定項目について、低栄養の除くすべてにおいて、前回調査時点に比べ、今回調査時点では該当割合が多くなっています。

■運動器の機能低下リスク

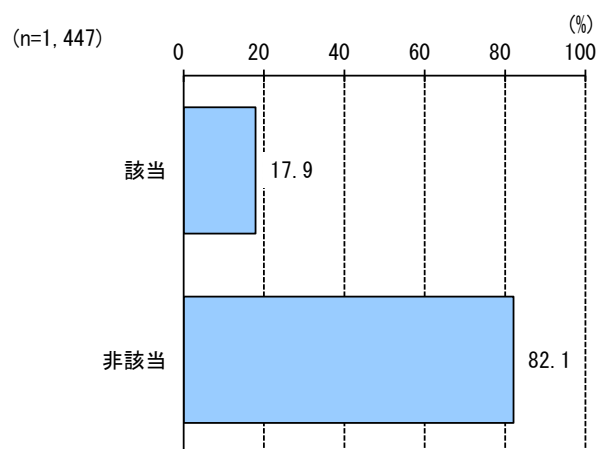


■転倒リスク

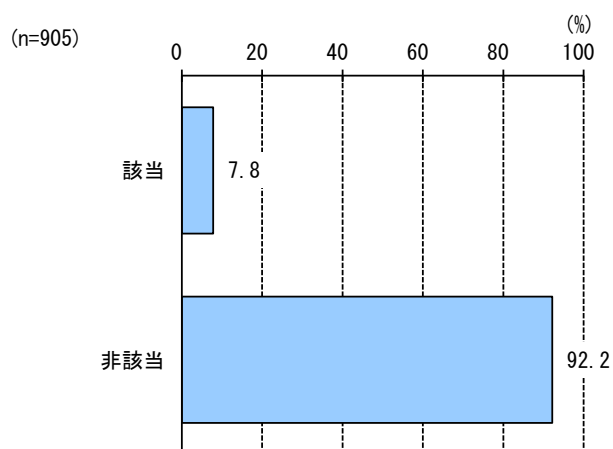


■閉じこもりリスク

【今回調査】

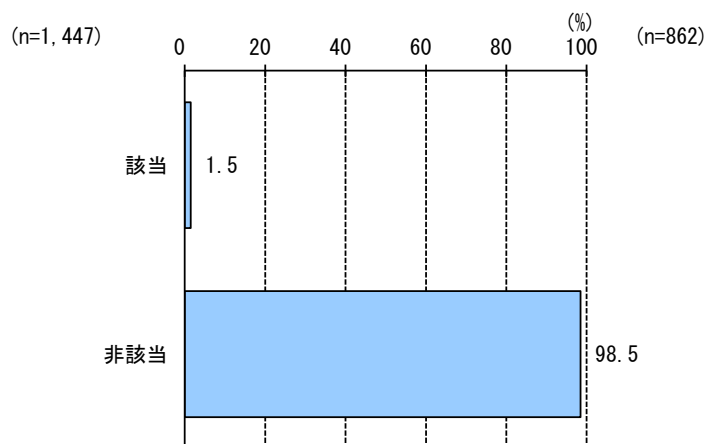


【前回調査】

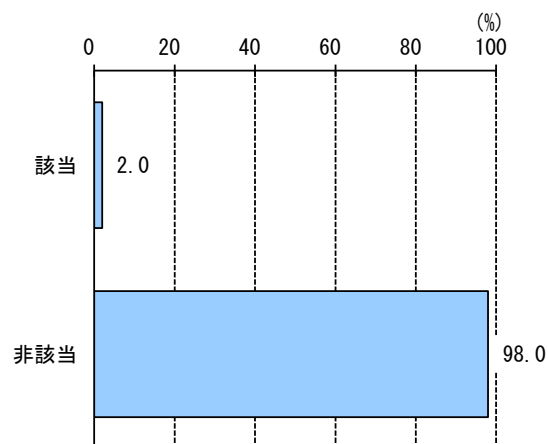


■低栄養のリスク

【今回調査】

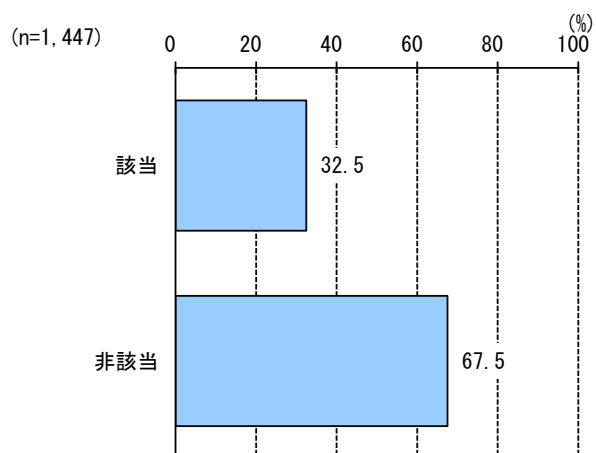


【前回調査】

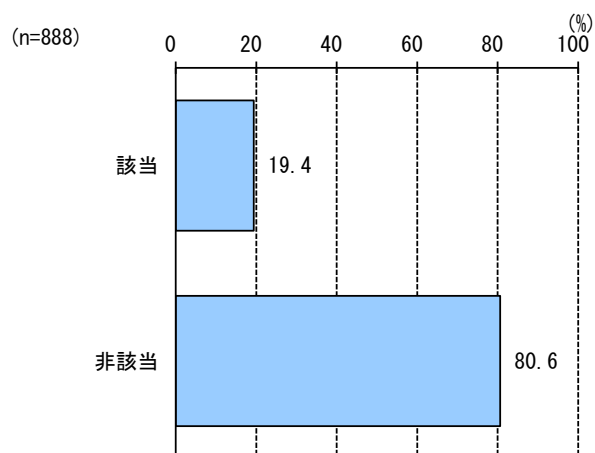


■口腔機能の低下リスク

【今回調査】

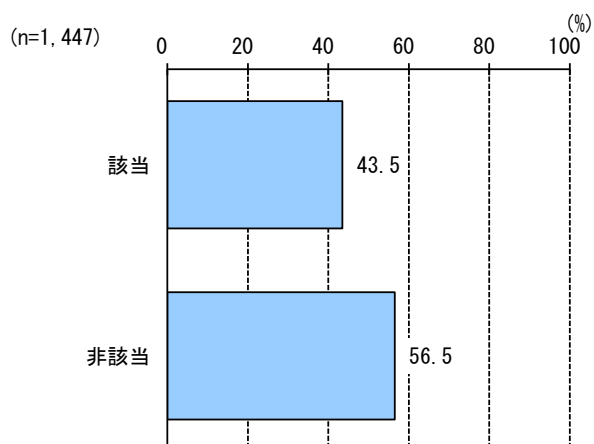


【前回調査】

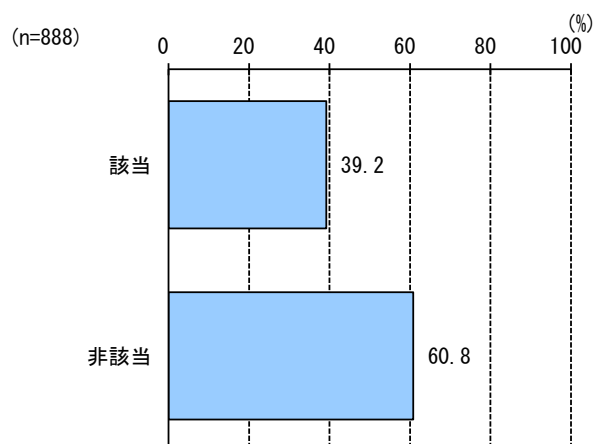


■認知機能の低下リスク

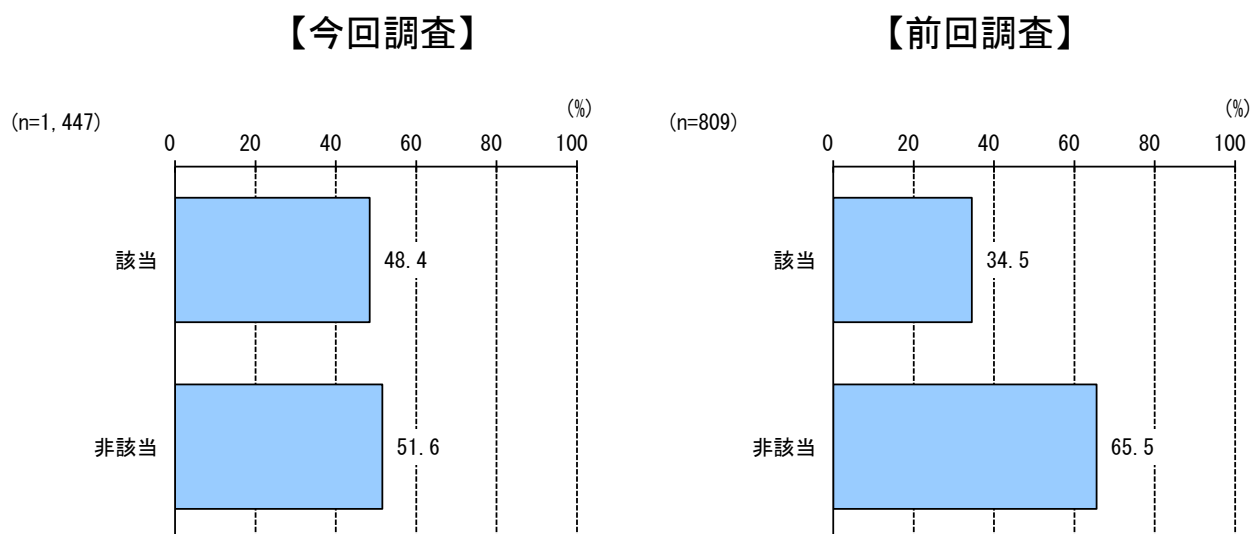
【今回調査】



【前回調査】



■ うつのリスク



4. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果による前期結果との比較総括

- ◇前期調査時点に比べ、市内の高齢化が進んでいること、独居高齢者の割合が増加していること、さらに生活様式の変化なども受け、回答傾向の変化が見られました。
- ◇トイレの心配や、新型コロナウイルス等を理由とした外出機会の減少、それに伴う閉じこもりリスクをはじめとした各種リスクの該当割合も増加していることが考えられます。
- ◇認知症に関する相談窓口の周知度は減少しているため、今後より一層の周知啓発が重要です。
- ◇健康づくり活動等への参加意向について、増加傾向にあると考えられます。感染症の流行状況も踏まえつつ、感染拡大期において活動停止を余儀なくされた活動への支援を進めつつ、参加意向のある方々に対して積極的にアプローチすることで地域活性化に取り組むことが大切であると考えられます。

Ⅱ. 在宅介護実態調査について

1. 分析の観点

門真市において高齢者が安心して自宅での生活を続けられ、また、家族など介護者の方が仕事を続けられるための介護サービスの在り方を検討することを目的に「門真市 在宅介護実態調査」実施しました。

分析にあたっては、『介護保険サービスや高齢者保健福祉サービスの利用状況』、『サービス対する今後のニーズ』などを把握することを目的に、「くすのき広域連合 第8期介護保険事業計画」策定時に実施された類似調査（要介護認定者調査）の調査結果と比較を行いました。

調査概要

	前回調査（第8期）	今回調査（第9期）
調査名	要介護認定者調査（くすのき広域連合）	門真市 在宅介護実態調査
実施期間	令和2年6月26日 令和2年8月7日	令和5年2月1日～ 令和5年2月24日
対象者	くすのき広域連合管内で、在宅で生活し、要介護認定を受けている65歳以上の高齢者6,000名	門真市内にお住まいの要支援・要介護認定を受けている在宅の方
実施方法	郵送調査	郵送調査
発送件数	5,786件 ※対象外となる施設入所者・死亡者を除いた数	1,981件
回答状況	有効回答数：2,704件 （うち門真市…953件） 有効回答率：46.7%	有効回答数：1,243件 有効回答率：62.7%

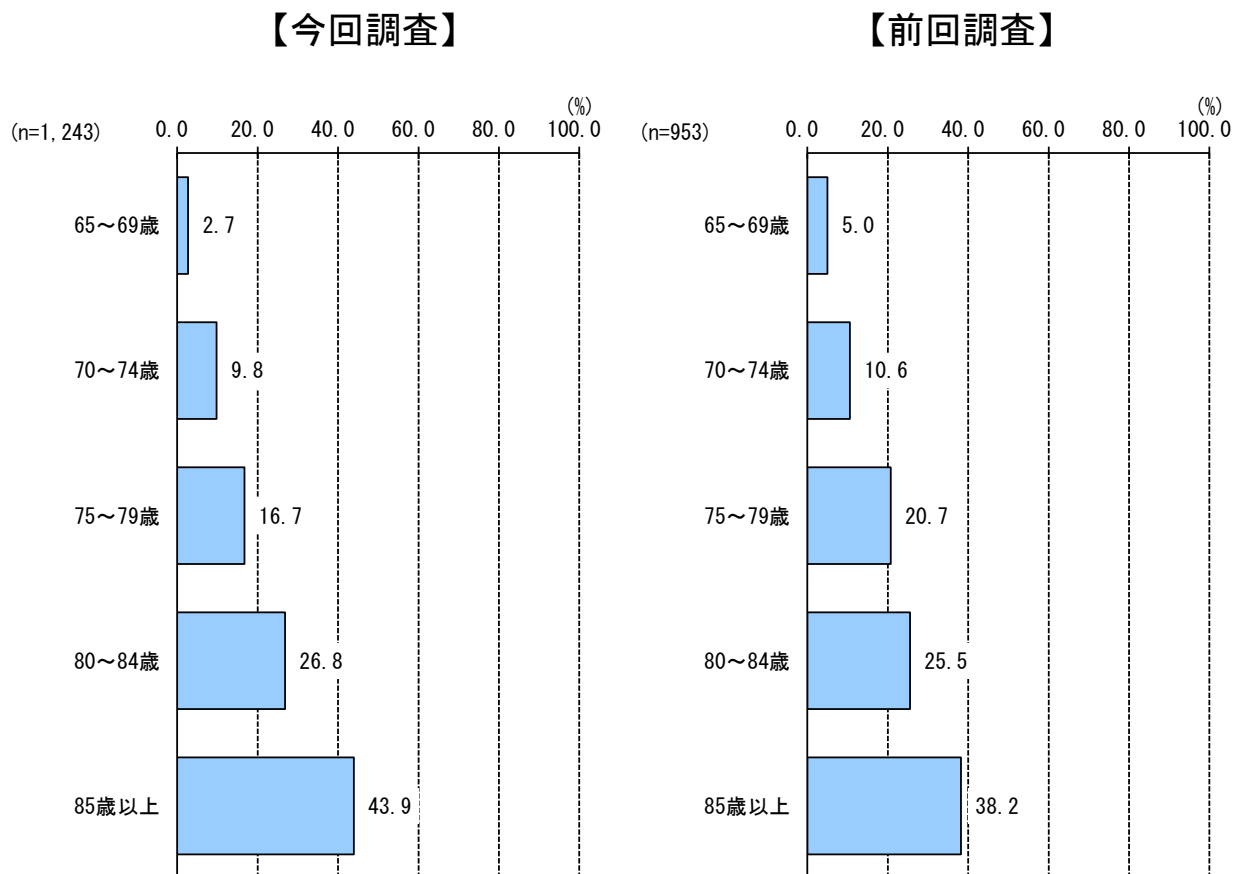
2. 留意点

本資料においては今回調査と前回調査で同様の質問項目のみ一部抜粋し、比較しています。なお、両調査の調査対象者・調査項目が異なるため、比較結果はあくまで参考値となります。

3. 分析結果

(1) 調査対象者の年齢

○ 調査対象者（在宅で介護受けている 65 歳以上の方）について、85 歳以上が多くなっています。

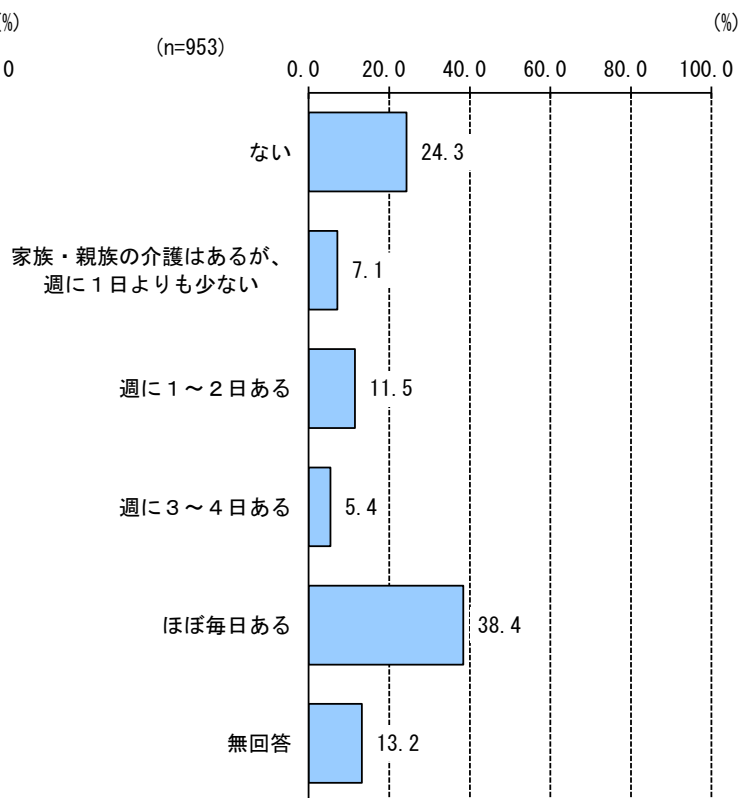
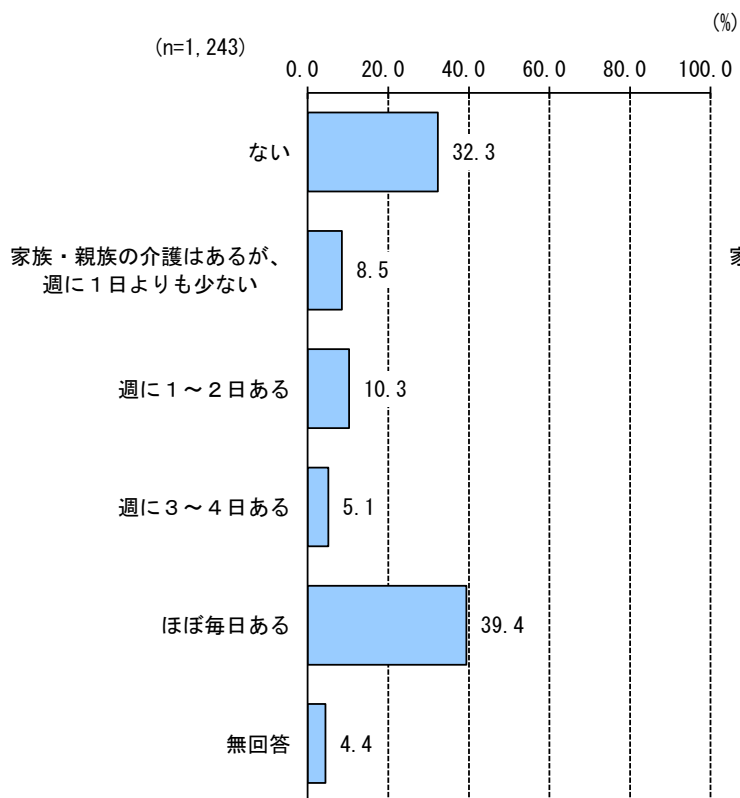


(2) 親族からの介護の頻度

○ 親族からの介護が無いと回答している割合が多くなっています

【今回調査】

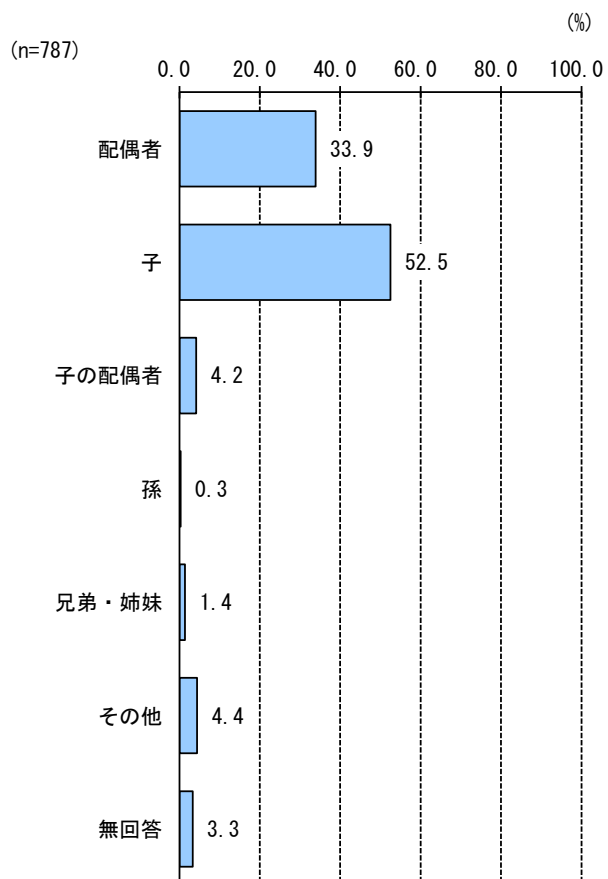
【前回調査】



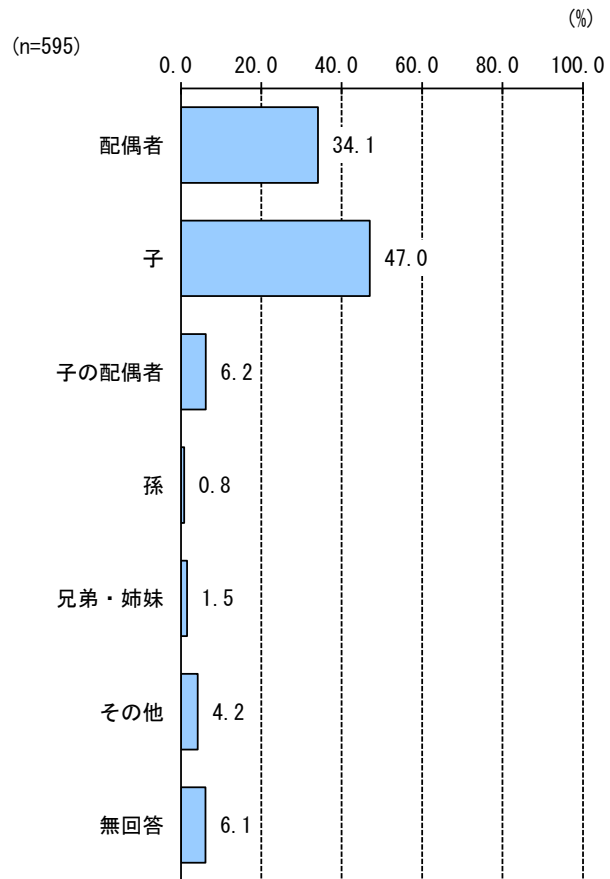
(3) 主な介護者

○ 主な介護者については「子」の割合が多くなっています

【今回調査】



【前回調査】

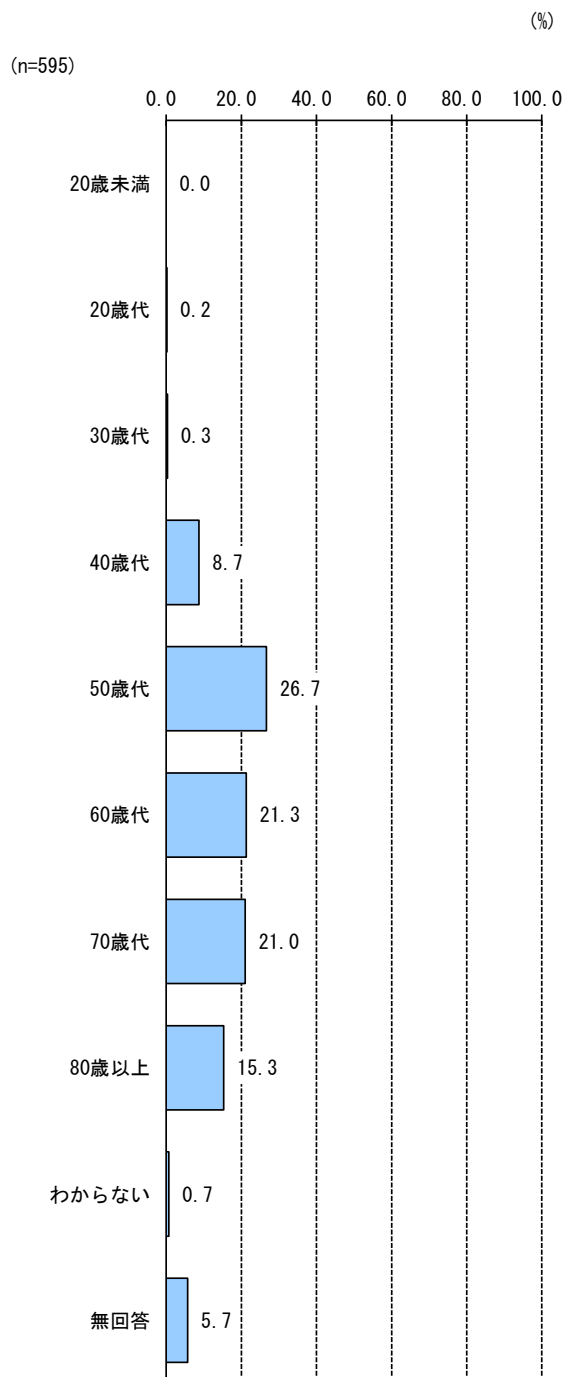
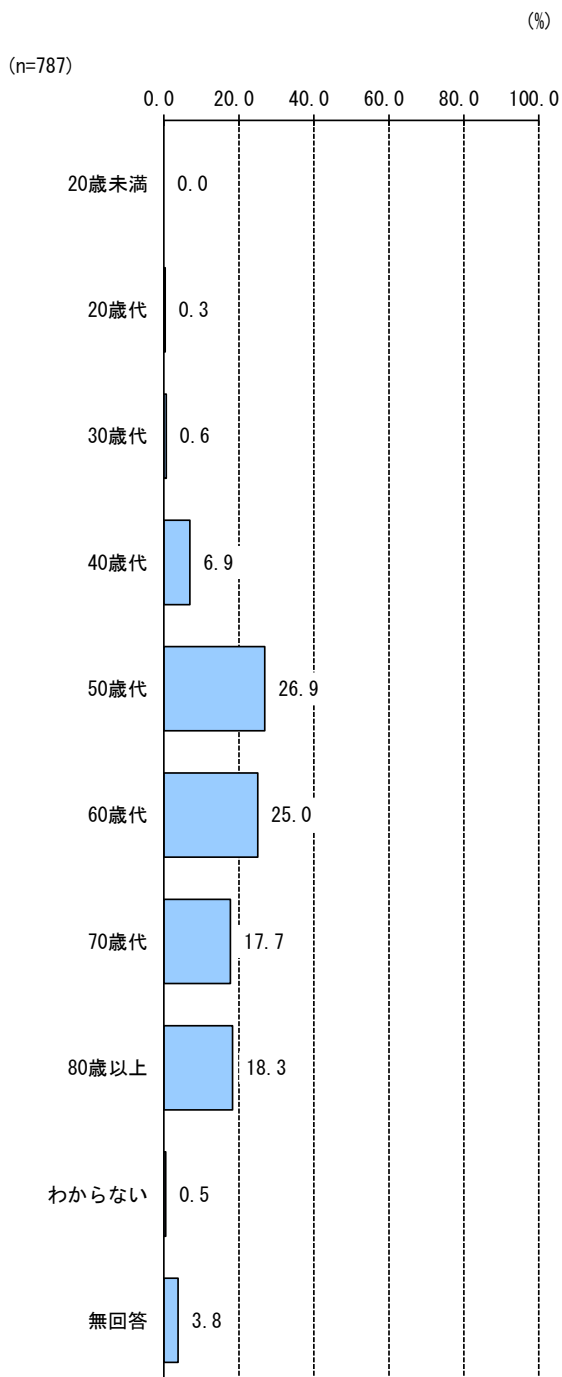


(4) 主な介護者の年齢

○ 主な介護者の年齢について、「60代」、「80代」が多くなっています。

【今回調査】

【前回調査】

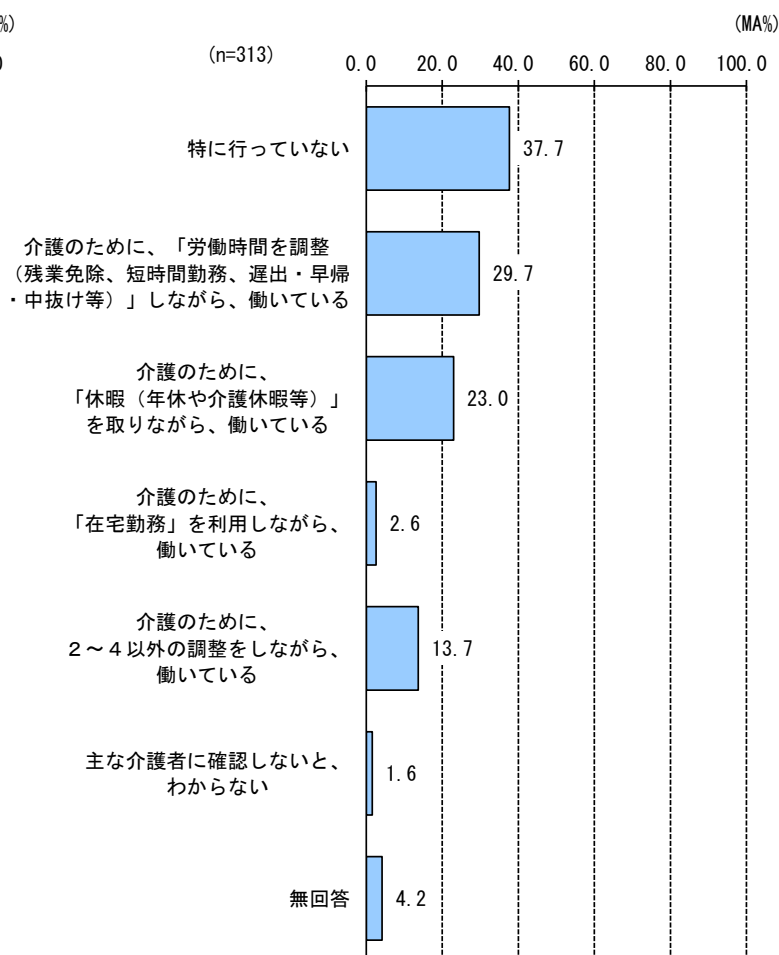
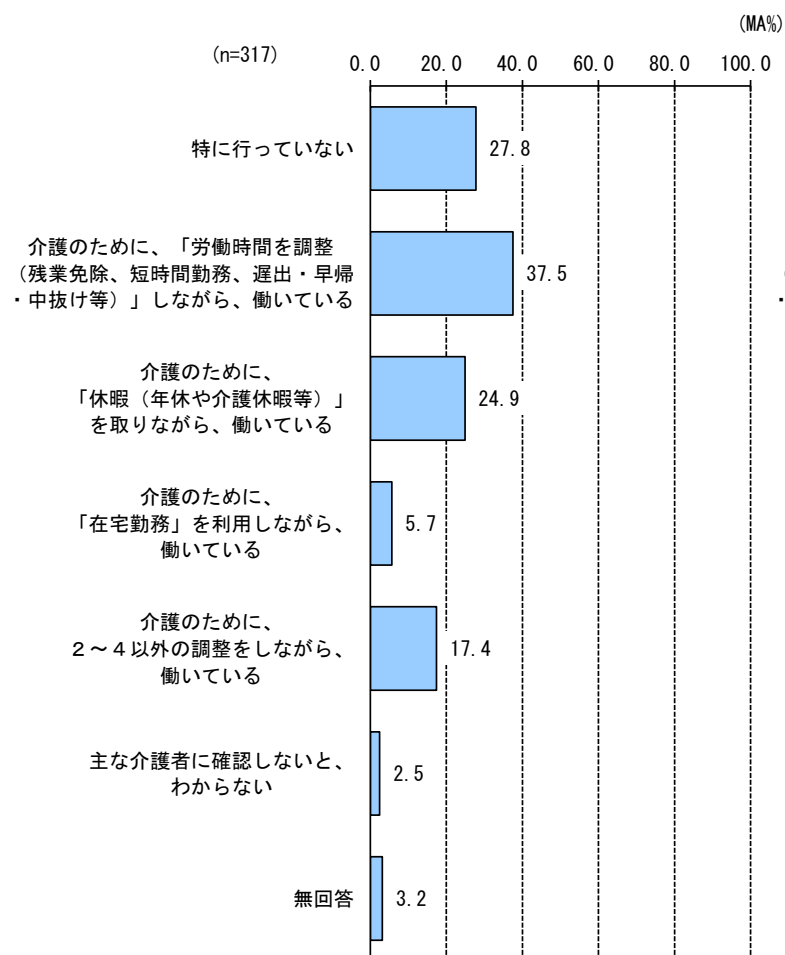


(5) 主な介護者の働き方の調整

- 主な介護者が行っている働き方の調整について、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が多くなっています。

【今回調査】

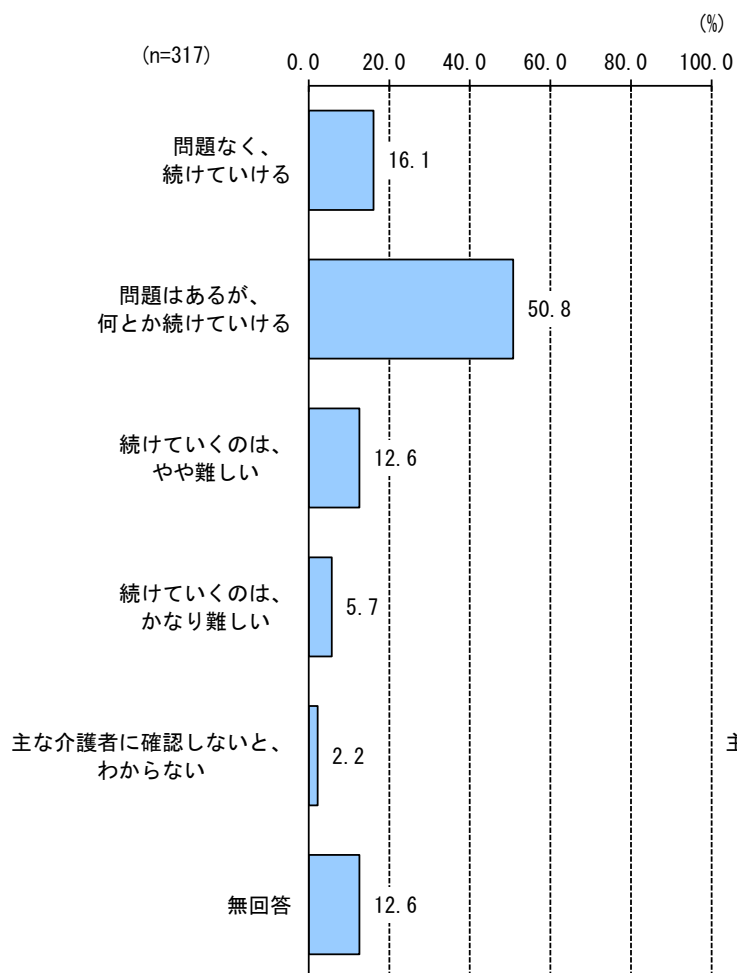
【前回調査】



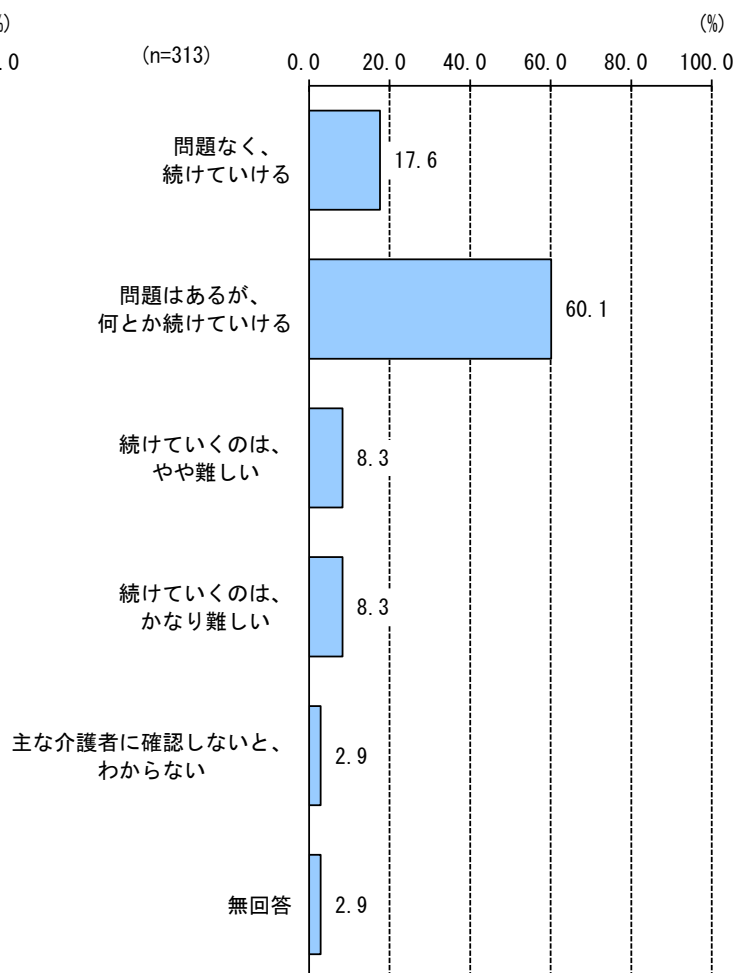
(5) 今後の仕事と介護の両立

- 主な介護者が今後の仕事と介護の両立は「続けていくのは、やや難しい」と感じている割合が多くなっています。

【今回調査】



【前回調査】

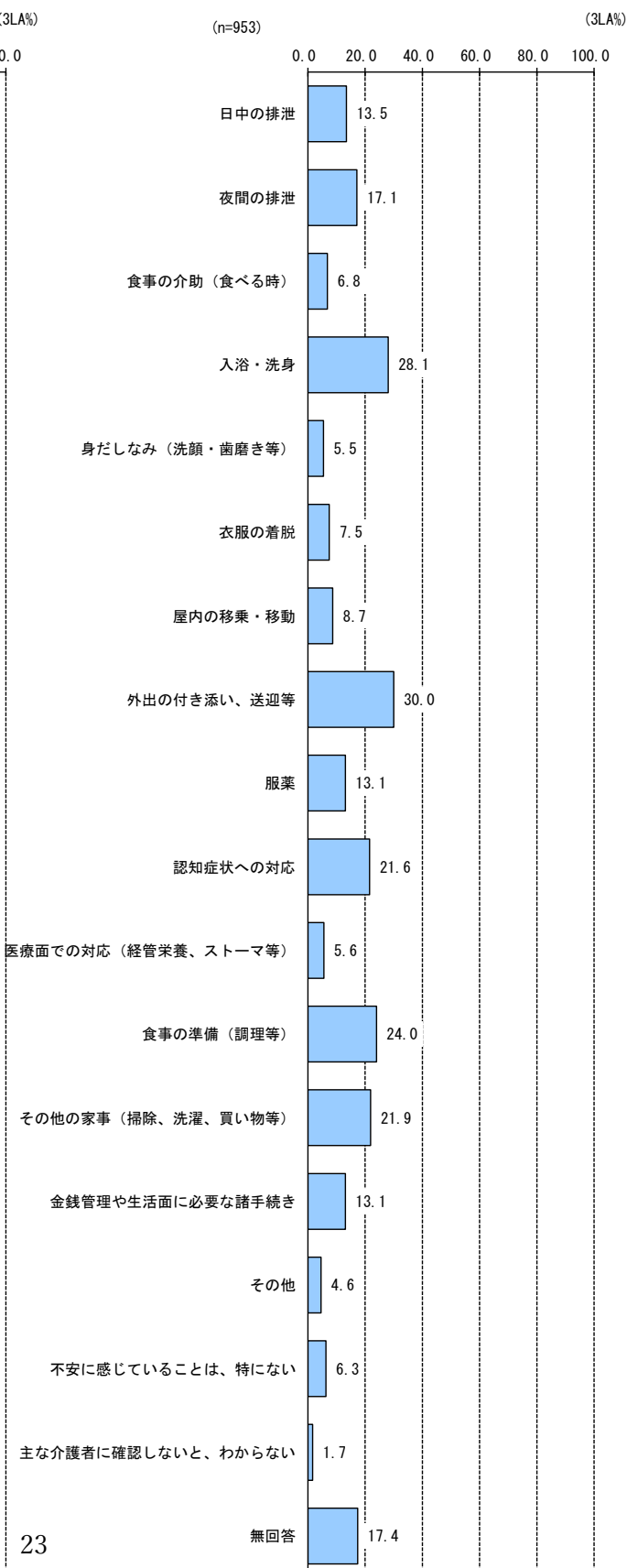
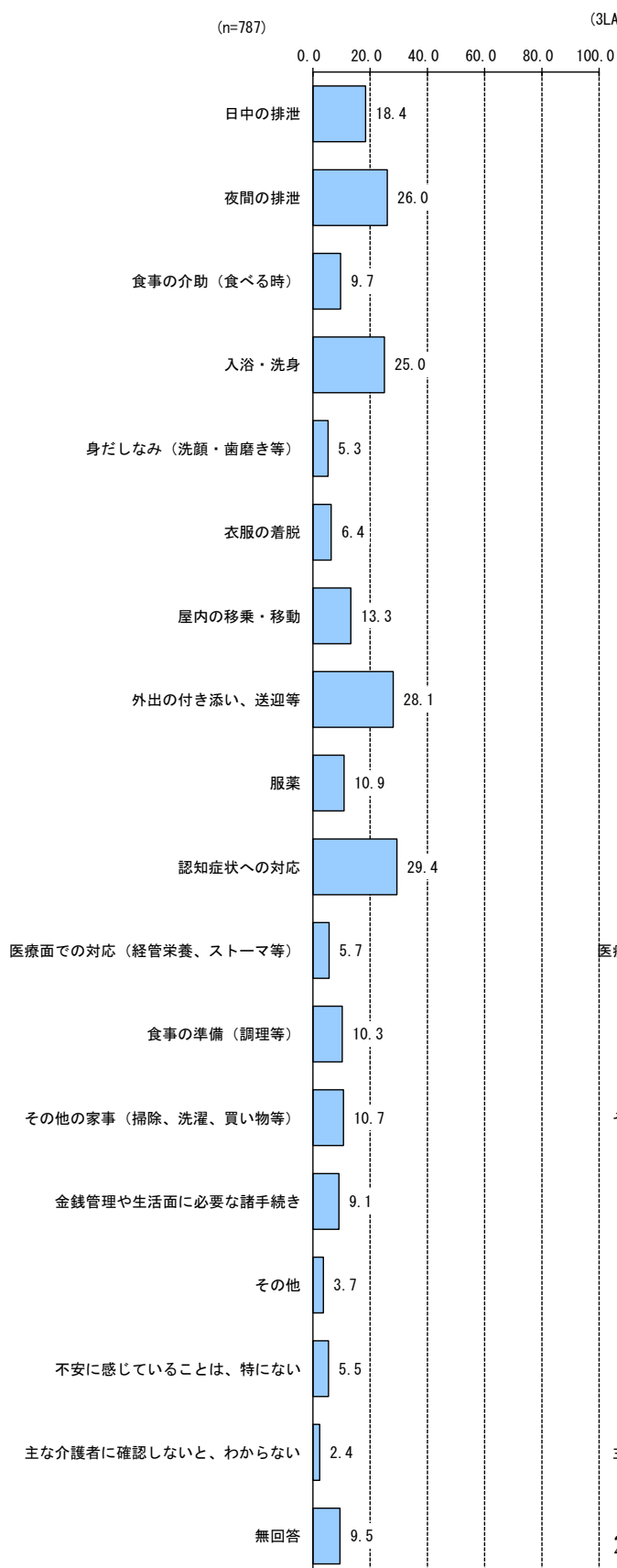


(5) 主な介護者が不安に感じる介護

- 主な介護者が不安に感じている介護について、「日中・夜間の排泄」「認知症状への対応」が多くなっています。

【今回調査】

【前回調査】

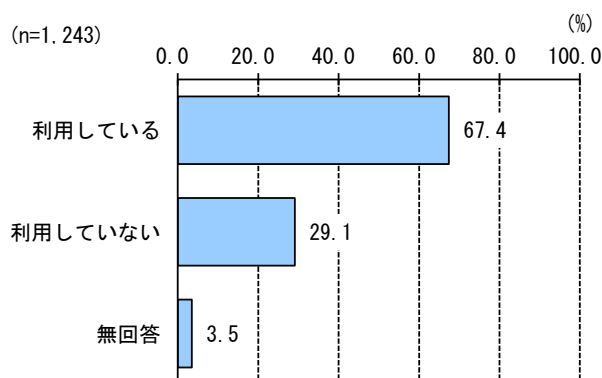


(6) 介護保険サービスの利用について

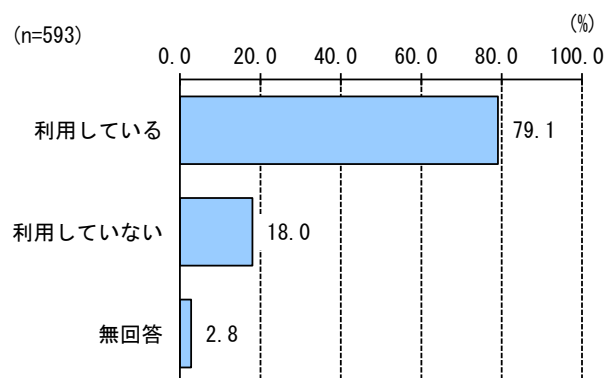
○ 介護保険サービスの利用している割合は減っており、その理由としては「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「家族が介護をするため必要ない」「利用料を支払うのが難しい」等が多くなっています。

■利用の有無

【今回調査】

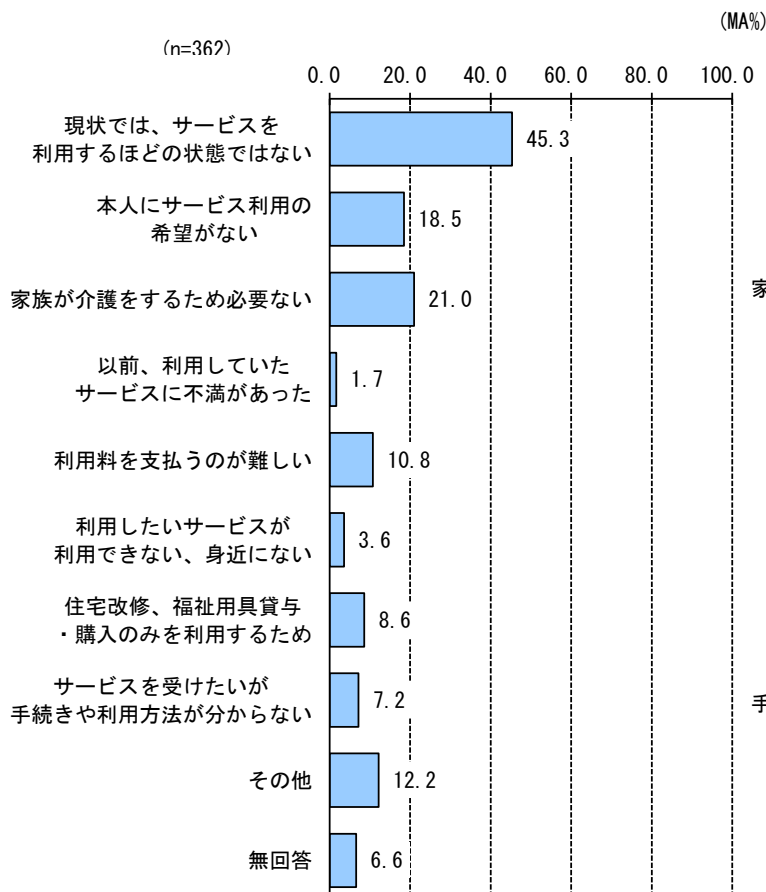


【前回調査】

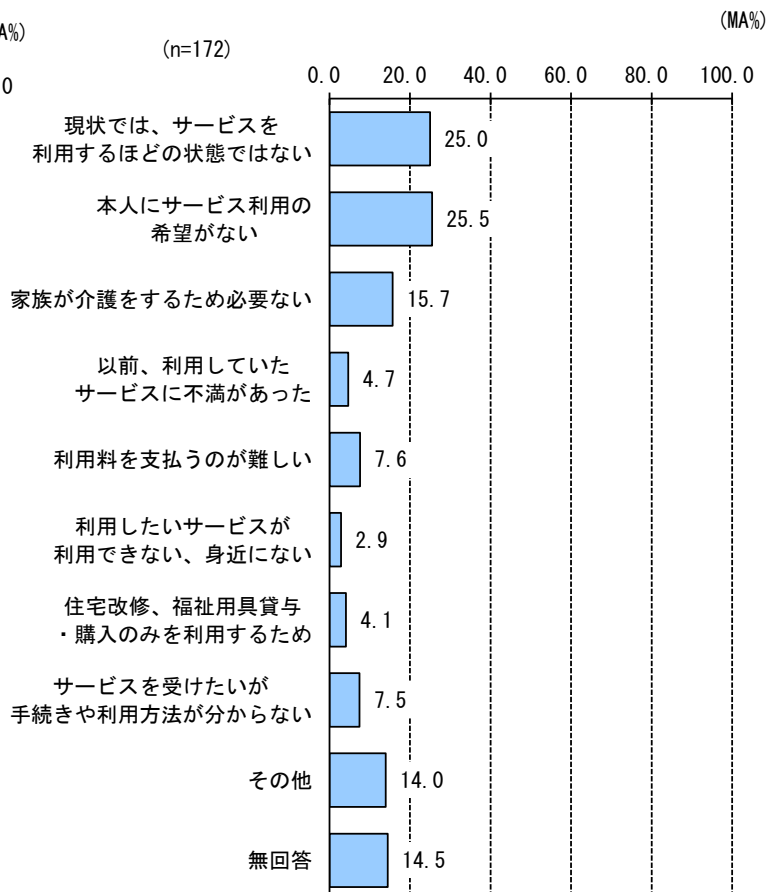


■未利用理由

【今回調査】



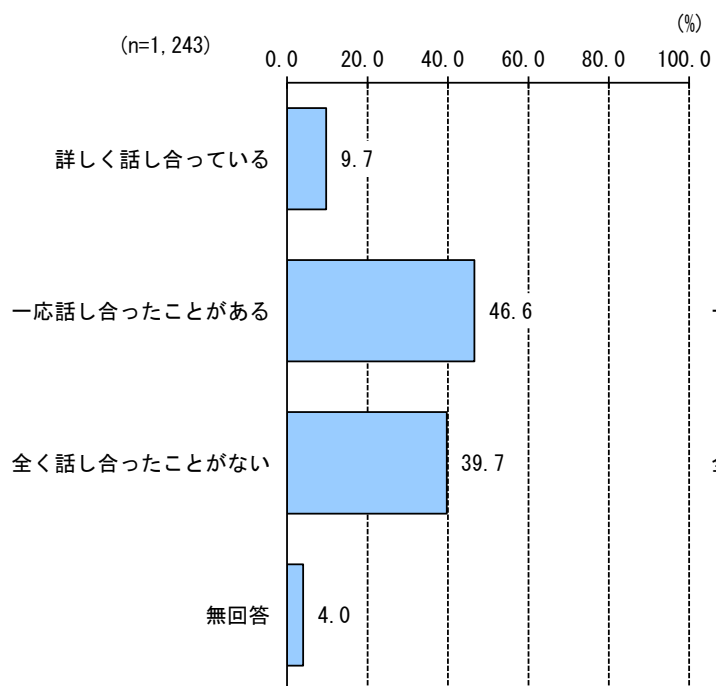
【前回調査】



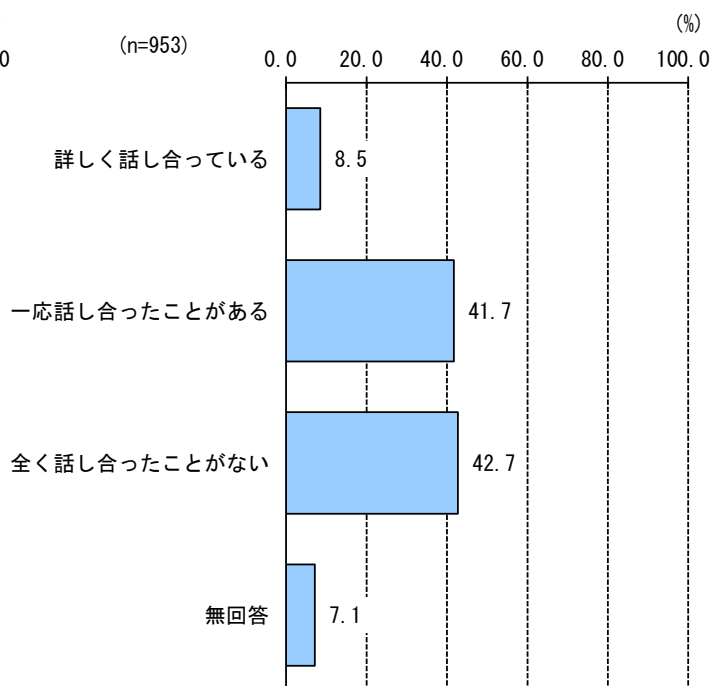
(7) 延命に関わる治療についての話し合いの有無

○ 延命に関わる治療について、「詳しく話し合っている」「一応話し合ったことがある」方の割合が共に多くなっています。

【今回調査】



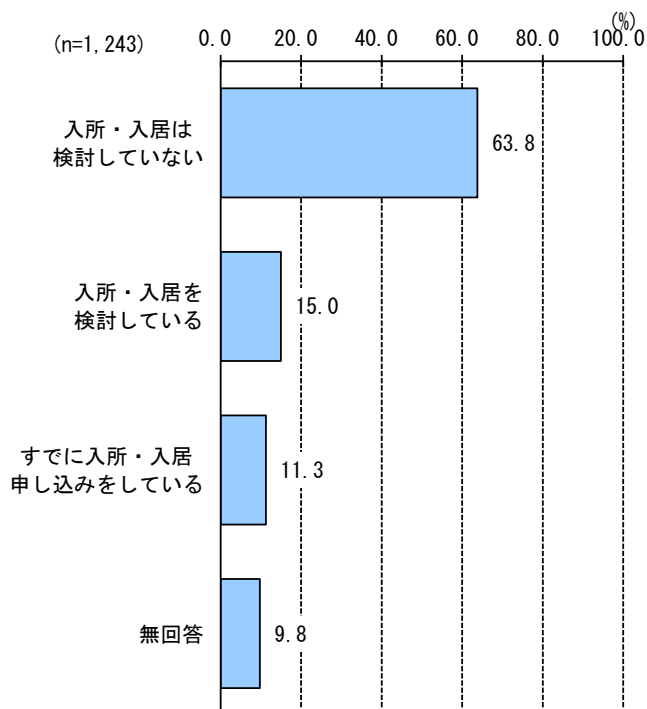
【前回調査】



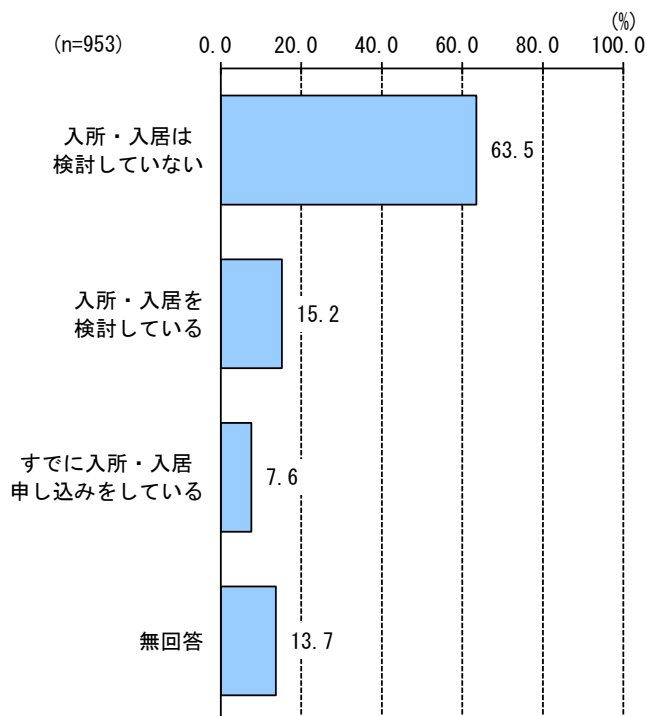
(8) 施設等への入所・入居の検討状況

○ 施設等へ「すでに入所・入居申し込みをしている」方の割合が多くなっています。

【今回調査】



【前回調査】



4. 在宅介護実態調査の比較総括

◇85 歳以上の割合が増えており、在宅で介護を受けている方においても高齢化が進んでいると考えられます。

◇主な介護者として子の割合が増えています。また、主な介護者の年齢では 60 歳代以上の割合がわずかに増加しています。主な介護者の属性とあわせてみると、いわゆる“老々介護”の増加に関して、配偶者だけでなく高齢者となった子が介護を担っている状況が推察されます。

◇主な介護者の方が介護のために「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」している割合が多くなっています。また、仕事と介護の両立を続けていくことに対して困難と感じている介護者の割合も多くなっています。

◇主な介護者が不安に感じる介護として「日中・夜間の排泄」や「認知症状への対応」との声が多くなっています。介護者が安心して働きに行ける・自宅で安心して過ごせるためにも、これらのサービスや支援の充実などを通して、不安感を軽減することが在宅生活を継続させるために効果的と考えられます。

◇施設等へすでに入所・入居申し込みをしている方も多くなっており、上述した在宅生活の継続が難しい状況が増えていることがうかがえます。